

平成21年度全国環境研協議会騒音振動担当者会議の概要

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成21年度に企画部会が中心となり開催された各学会併設全環研集会や研究発表会等の概要を今号で特集としました。今回は開催された4つの集会等について取り上げました。

開催順は次のとおりです。

騒音振動担当者会議

開催日：平成21年9月9日

開催地：埼玉県(大宮ソニックシティビル)

大気環境学会シンポジウム

開催日：平成21年9月17日

開催地：神奈川県(慶應義塾大学日吉キャンパス)

廃棄物資源循環研究発表会

開催日：平成21年9月18日

開催地：愛知県(名古屋大学豊田講堂)

水環境学会併設研究集会

開催日：平成22年3月16日

開催地：福岡県(福岡大学七隈キャンパス)

広報部会 会誌編集委員会

* * *

全国環境研協議会の企画部会が毎年開催する平成21年度の騒音振動担当者会議は、埼玉県環境科学国際センターが事務局となり、平成21年9月9日に大宮ソニックシティビルで開催された(参加者34名)。

この会議は、全国の騒音振動に携わる担当者の情報交換や交流の場として大事な役割を果たしている。また、環境省との情報交換の場としても機能している。一般講演、特別講演の概要は次のとおり。

○一般講演 1

「騒音の目安」づくり調査結果について

・一般住民が通常の生活で遭遇する騒音レベルについて、等価騒音レベルによる測定結果の概要報告と「騒音の目安」が例示された。この調査は全国環境研協議会の24機関が参加して実施したもの。

○一般講演 2

千葉県における「音と振動」の教育・訓練への取り組み

・対象者(学生、一般県民、市町村職員等)に合わせた音と振動の教育訓練プログラムを作成し、実践している事例について報告があった。

○一般講演 3

貨物列車騒音の実態調査

・貨物列車の騒音について、列車速度や車両編成の増加に大きく影響されずほぼ一定の騒音レベルを示し、機関車型式が騒音レベルと相関が高いという報告があった。

○一般講演 4

在来線鉄道騒音の把握手法の検討

・鉄道騒音の現状調査から、線路構造・レール種別・車両形式・車両編成で騒音レベルに有意な差があり、上下線の違い等では有意な差はなかった。今後必要な測定精度によっては省略可能な項目を検討できるという報告があった。

○一般講演 5

騒音調査におけるフリーFFTソフトの適用可能性の検討

- ・Wave形式で収録された音圧波形データを周波数分析するのであれば、フリーのソフトでもある程度は可能であるという報告があった。

○特別講演 1

騒音行政の課題と今後の展望

- ・工場・事業場における騒音対策の推進にあたっては、従前からの規制的手法とともに、情報的手法としての「騒音ラベリング制度」や自主的取組手法である「各種ガイドライン」等の規制以外の手法について検討することが適当である。
- ・低周波音の発生実態、諸外国の制度等について、調査・研究を行っていく予定である。

○特別講演 2

平成20年度新幹線鉄道騒音・航空機騒音のモニタリングのあり方に関する検討調査報告

- ・新幹線騒音関係では新幹線鉄道騒音測定・評価マニュアル(案)骨子を作成し試行中である。
- ・航空機騒音関係では新たな評価指標であるLdenによる測定が実施できる態勢の整備が必要である。
- ・類型指定関係では類型指定と用途地域に関する状況調査、無指定地域における適正な類型指定のあり方の調査、検討等を予定している。

会議次第

1 挨拶

埼玉県環境科学国際センター 研究所長

門野 博史

2 一般講演

2.1 「騒音の目安」づくり調査結果について
全国環境研協議会騒音小委員会

宮城県保健環境センター 菊地 英男

2.2 千葉県における「音と振動」の教育・
訓練への取組み

千葉県環境研究センター 杉尾 明紀

2.3 貨物列車騒音の実態調査

東京都環境科学研究所 門屋真希子

2.4 在来線鉄道騒音の把握手法の検討

長野県環境保全研究所 町田 哲

2.5 騒音調査におけるフリー-FFTソフトの
適用可能性の検討

埼玉県環境科学国際センター

佐坂 公規

3 特別講演

3.1 騒音行政の課題と今後の展望

環境省水・大気環境局大気生活環境室

木村 仁美

3.2 平成20年度新幹線鉄道騒音・航空機騒音のモニタリングのあり方に関する検討調査報告

環境省水・大気環境局自動車環境対策課

難波 和宏

4 次期開催主催者

新潟県保健環境科学研究所